新しい復興の必要（1）　神聖な啓示の最高峰に到達する（1）　時代のビジョン

鳥瞰	神の選民の間に、復興されたいという切望が常にありました。わたしたちは時代の務めを通して、神聖な啓示の最高峰、時代のビジョンに到達することによって、新しい復興へと入ることができます。それには、Ⅱペテロ第 1 章 12 節の「現にある真理」（「今日の真理」とも訳すことができる）を知らなければなりません。この現にある真理とは、神の永遠のエコノミーの啓示です。わたしが望むのは、全地にあるすべての召会の聖徒たちがこの啓示を見て立ち上がり、こう祈ることです。神がわたしたちに新しい復興、すなわち、歴史において決して記録されたことがない復興を与えてくださいますように」	
	真理要点	経験適用
1日	1．わたしたちが地上で生きている目的は何でしょうか？この目的のためになぜ復興が必要なのでしょうか？ 2．ホセア 6:2 で言っている「二日」の荒廃と「三日目」の復活を説明してください。	1、わたしたちはみな、救われ、地上で保たれているのは、行って諸国民を弟子とし、エルサレムから始まって、ユダヤに、サマリアに、さらに地の果てにまで拡大するためです。もしわたしたちが自分の教育、経歴、良い結婚、良い家のために生きるなら、それは空（くう）の空です。わたしたちがここで生きているのは、主イエスを、全世界に拡大するためです。わたしたちが努力して人を訪問することを実行しても、復興されることがなければ、これは負えない重荷となってしまいます。 2．神にとって千年は一日のようですから、この「二日」は二千年の期間を指しているのでしょう。A．D．70 年にタイタスがエルサレムと宮を破壊した時からほとんど二千年間、わたしたちの代表であるイスラエルは荒廃してきました。最終的に、「三日目」、すなわち千年王国の千年があり、その時イスラエルは起き上がらせられます。原則は、わたしたちのクリスチャン生活においても同じです。ある時わたしたちは荒廃しました。荒廃の二日の後、三日目があり、それは復活における霊なるキリストを表徴します。
2日	1．ヨナタンが二つの務めの間に立って、最終的に正しく務めについていけなかったことは、わたしたちに何を啓示しますか？ 2．今日、ビジョンの中で神に仕えることで、なぜ全体的なビジョンに到達する必要があるのでしょうか？	1．ヨナタンは、サウルとダビデの間、二つの務めの間に立っていました。彼は第二の務め（ダビデ）に従うべきでした。しかしながら、ヨナタンは第一の務め（サウル）との関係がとても深かったので、自分自身が抜け出すことができませんでした。人がその時代の務めを見て、それと接触するようになるのは、神のあわれみです。しかし、人が自分の過去の務めをわきへ置き、正しくしたがうこともまた、神のあわれみにかかっています。 2．簡単に言えば、今日わたしたちが神に仕えるために、わたしたちのビジョンは、創世記におけるアダムの第一のビジョンから、召会の現れである新エルサレムの最終のビジョンまで、ひたすら延びていなければなりません。これが、全体的なビジョンです。　今日わたしたちが一つ思いであることができるのは、ただ一つのビジョンと一つの展望を持っているからです。わたしたちはみなこの今日の時代の、すべてを受け継いでいるビジョンの中にいます。
3日	1．Ⅱペテロ 1:12 の「現にある真理」とは何ですか？なにが原因で聖書の中の多くの真理が隠されてきたのでしょうか？ 2．現にある真理を知るのに、わたしたちの態度は如何にあるべきでしょうか？	1．ペテロの第二の手紙第 1 章 12 節の「現にある真理」は、「今日の真理」とも訳すことができます。「今日の真理」とは何でしょうか？すべての真理は聖書の中にあります。一つの真理も、聖書の中にないものはありません。しかし、それらはみな聖書の中にありますが、人の愚かさ、不忠信、怠慢、不従順を通して、多くの真理が失われ、人から隠されました。真理はそこにあったのですが、人はそれらを見たりそれらに触れたりしませんでした。時が満ちてはじめて神は特定の期間にある真理を解き放ち、それらが再び啓示されるようにしました。 2．主のあらゆる働き人は、現にある真理が何であるかを、神の御前で尋ね求めるべきです。わたしたちは尋ねる必要があります、「神よ、現にある真理とは何でしょうか？」。聖書には多くの主要で重要な真理がありますが、わたしたちが知る必要があるのは、神の現にある真理です。神に感謝します。わたしたちはへりくだり、ひれ伏して、自分自身を否む必要があります。
4日	1．ヨハネによる福音書第 1 章が啓示している永遠の二つの区分を述べてください。 2．神の中心的な啓示とは何ですか？	1．過去の永遠に、神は計画し、もくろまれましたが、何も行なわれませんでした。未来の永遠に、神は何もされないでしょう。なぜなら、その時には、すべての事が完成されてしまっているからです。未来の永遠に、彼はただ彼の成し終えた働きを享受されるでしょう。神は完成する必要があるすべてのものを、時間の架け橋の上で完成されます。どれほどの時代があっても、神がどれほどの働きを行なわれても、彼にはただ一つの目標があるだけです。聖書の初めに、ひとりの唯一の神がおられ、終わりには偉大な、団体の神、新エルサレムがあります。 2．三一の神が肉体と成り、肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成りました。この霊は召会を建造し、それはキリストのからだとなって、神のエコノミーの最終目標としての新エルサレムを究極的に完成します。
5日	1．わたしたちが神の栄光へもたらさ、神の栄光にあずかることを説明してください。 2．わたしたちは神・人として、どのよう神の出現にあずかりますか？	1．ヘブル人への手紙第 2 章 10 節は、神は多くの子たちを栄光へ導き入れると言います。パウロはローマ人への手紙第 8 章 30 節で、これに言及しています。栄光化は神の全体的な救いの段階であり、その中で神は彼の命と性質の栄光をもって、完全にわたしたちの体に浸透されます。このようにして、彼はわたしたちの体を変貌ぼうし、彼の御子の復活した、栄光の体に同形化します。これは神の有機的な救いにおける究極の段階でありそこにおいて神は完全な表現を獲得されます。 2．わたしたちの命なるキリストが現される時、わたしたちは彼と共に栄光のうちに現されます。今日、神は隠れておられますが、ある日、彼は全宇宙に現されるでしょう。ローマ人への手紙第 8 章 19 節は、神が現され、啓示されるとき、彼は彼の子たちと共に現され、彼らは神と命、性質、思い、存在、かたち、栄光において同じになることを示しています。
6日	1．ヨハネは啓示録 1:10 で主日に霊の中にいたと言いましたが、この意義と、またその霊と花嫁について説明してください。 2．聖なる都が、神と人とのミングリングと相互の住まいであることを説明してください。	1. これは、ヨハネが絶えずミングリングされた霊の中で生き、歩いていた人であったことを意味します。次に、啓示録の終わりで、その霊と花嫁が共に語っています。花嫁は召会であり、その霊は究極的に完成された三一の神としての「その」霊です。この霊は召会の夫です。これは、究極的に完成された三一の神が、造り変えられた三部分から成る召会と結婚することを示しています。 2．聖なる都は団体のパースンです。そして、この団体のパースンは一組の夫婦、すなわち手順を経た三一の神が、造り変えられた三部分から成る人と結婚したものです。これはその霊と花嫁が一になることです。神性と人性は共に結婚し、共にミングリングされ、一つの実体となります。神の幕屋としての聖なる都は神が住むためであり、宮としての神と小羊はわたしたちが住むためです。神はわたしたちの宮であり、わたしたちは神の幕屋です。
まとめ	今日、わたしたちが主を愛して神に仕えるためには、「時代の務め」を知ることが必要です。あらゆる時代に、特別な回復と働きがあります。また神はあらゆる時代に、その時代のビジョンを人に与えられます。ノアの時代にもしあなたが箱船の建造にあずからないならば、あなたは時代のビジョンの中で仕えていません。あなたは勤勉に労苦しているかも知れませんが、神によって承認されません。このことは真理と関係しています。 聖書の中には多くの主要で、重大で、普遍的な真理があります。しかし更に神の今日の、現にある真理にはっきりとしていることが必要です。それは神聖な啓示の最高峰であり、神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となるためであるということです。	